

令和5年5月29日開催の企画研修『生活支援記録法（F-SOAIP）実践の可視化』で行いましたWebアンケートにてご質問をいただきましたので回答いたします。

\*質問部分については一部抜粋して掲載しております。

Q1.

最後のグループワークでO（客観的情報）の当たるところで討論しました。文章の中で客観的情報がないという結論があっても間違いではないとは思いますが、もしあるとすればどこが当たるのか教えてもらいたいです。

A1.（講師回答）

本人より、『「楽しかった。今度はお父さんと外出したい」との話が聞かれる。』という記載はSにあたりますが、お話をされた様子の記載があればそれはOとして表現できると思います。例えば、『笑顔で、「今度はお父さんと外出したい。」と何度も繰り返し話されていた』と記載すれば、それがどれだけ楽しかったか客観化できると思います。

Q2.

話し言葉を記入する際、方言のまま書くようにと看護の時に言われました。例えば、もうダメだ。→もうダメや。→もうアカンわ、のように。それでよろしいでしょうか。

A2.（講師回答）

そのまま記載されてよいと思います。より本人の感情が伝わると考えます。

Q3.

叙述形式の分からF-SOAIPへ変換するのは良いが、会話からF-SOAIPでいきなり記入すると、反対にダラダラ書いてしまう傾向があります。うまくまとめるコツなどがあれば教えてください。

A3.（講師回答）

F-SOAIP 6項目すべて網羅することを考えず、印象に残った部分がこの6項目の一部分、例えば「S」であったり、「O」であったり、ケアマネジャーとして発した言葉である「I」だけでも取り入れるところから始めてはどうでしょうか。その繰り返しから徐々に、記載できる項目が増えていくと思います。

Q4.

特に変化が無く、特記事項が無い場合でも F は必要でしょうか。出来るだけ書くようにはしていますが、状態確認とする時があります。

A4. (講師回答)

ケアマネジャー側が何を目的として、相手(利用者や家族等)と話すのか、その意識が「F」につながっていくと思います。

Q5.

具体的にどのような場面でこの記録を利用するのが効果的でしょうか。研修後、実務で利用しようとするのですが、マネジメントのすべてにおいて記入可能なものなのか、アセスメントや何か考察が必要な場面を中心に利用するのかと迷っています。

A5. (講師回答)

まずはご自分が居宅サービス計画書に位置付けている短期目標におけるモニタリングを意識してはどうでしょうか、また、病状不安定、介護サービスの増回等、イベントが発生したときを意識した時に記載してみるのみでよいと思います。日常は経過記録で記載しながらでどうでしょうか。

Q6.

記載する時の文末の表現にいつも悩みます。「I」は記載している時点で既に支援者が対応したことなので「〇〇と声かけした。」「P」は記載している時点で未来形の話なので「〇〇について調整を行う。」というような表現にしているのですが、その考え方でよろしいでしょうか。

A6. (講師回答)

それでよいと思います。「P」に追記するなら、「〇〇について◎月◎日までに調整を行う。」とすると将来計画がリアル化すると、ケアマネ自身が不在でも、他ケアマネも共有できると思います。

Q7.

PDCA サイクルというものをリハビリテーションやその他の分野においても、記載方法としてよく耳にしますが、介護支援専門員において、このような形式を取ることは一般的ではないのでしょうか。また、生活支援記録法についてですが、通常の介護支援記録に記載する際、IやSといった記号は付して記載されているのでしょうか。具体的な活用方法があれば教えていただきたいです。

A7. (講師回答)

利用者と向き合って情報収集・課題分析そして次の支援がわかる記述であればPDCAサイクルであろうと、F-SOAIP方式であってもよいと思います。居宅介護支援経過記録に記載形式として決められたものはないので、ご自分（支援者）が読み返してわかる記載、F-SOAIPならその一部分「I」や「S」のみでも記入して評価してみてください。

Q8.

Fの書き方がもう一つ分からなかったです。

A8. (講師回答)

支援者（ケアマネジャー）が一番確認しておきたい部分（支援内容の評価項目等）を切り取って記載してみてもよいかと思います。例えば、「初回デイサービス利用状況について」など。

Q9.

フォーカスすること＝タイトル でいいのでしょうか。

A9. (講師回答)

タイトルでもいいですね。

Q10.

既に現在の業務で取り入れています。悩ましいのは、すべての項目に当てはめられる内容がある時には記録の文字数や内容が膨大になったり、逆にすべての項目を埋められない場合は「P」をつけようがないなど、まだまだ未熟です。前者についてはもう少し文章を要約することを心がけるしかないのでしょうか。また、後者に関しては面接時に「F-SOAIP」を意識して臨むよう習慣化するしかないのでしょうか。何かヒントがあれば、ご教示願います。

A 10. (講師回答)

利用者や家族の中にはたくさんお話をされる方もおられます。言われたこと、内容をすべて記入しようと頑張りすぎないでください。そういう意味では要約になるとおもいますが、話し合いが終了するときに、「今日の話で〇〇について、◇◇ということによかったですね」と確認しておく、その部分に関連する部分を肉付けして記載することができるのではないかと思います。私の場合、F-SOAIP を念頭におくようになった時から、面談をするときに質問する事柄も整理されるようになり、それがF-SOAIP の記載につながったと思います。

Q11.

各項目が明確に分けられないこともあるかと思いますが、I と P が重なっているような記載でもいいのでしょうか。

A 11. (講師回答)

何事においてもはじめからすべてはうまくいきませんね。こんな感じかなあ〜と書き始めて後で読み返して気づくこともあると思います。気楽に記入できる部分から始めてみてください。

Q12.

「生活支援記録法」を実践したいと考えるが、実際に現在「居宅介護支援経過」の帳票にどのようなレイアウトで記載した方が閲覧する方にとって見やすいのか例示があれば示してほしいです。

A 12. (講師回答)

常時 F-SOAIP で記入しようとするのが難しいかもしれません。単純な経過、連絡等はこれまで記入されてきた書き方でよいと思います。例えばモニタリングや介護サービスの変更等利用者や家族から要望が上がった時、またそれ以外の病状が悪化等のイベントがあった時に、なぜ？何が起きている？等記載しておく、サービス変更の根拠になったり、アセスメントとして生かされるのではないのでしょうか。

経過記録の中に、囲って記載してもよいと思います。なるべく負担にならないようにしてください。

Q13.

F-SOAIP を記録に癖づけるコツはありますか。

A 13. (講師回答)

F-SOAIP を記録しようと意識すると、S：主観的情報 O：客観的情報をしっかりと聴こうという姿勢におのずとなると思います。聴けたところから、今回は「S」だけとか、一部分でも記載し始めてみて、少しずつ項目を増やしてみてはどうでしょうか。

Q14.

家族の言葉や家族からの情報は、SにもOにもなる場合はあるのでしょうか。

A 14. (講師回答)

その通りですね。

Q15.

後半に教えていただいた数日に渡って(日をまたぐとき)の記述(F-SOAIP)を取り入れて記載する場合、私のイメージでは経過記録に入れていくイメージなのですが、数日に渡った場合どのように記載すればいいのでしょうか。もしくは、経過記録に記載ではなく、別に記載していくのでしょうか。ご指導よろしく申し上げます。

A 15. (講師回答)

通常経過記録に記載する部分には、○月◎日電話受電、面談等記載しておいて、「詳細は○月▲日に記載」(この部分は支援が一段落したあとで追記)として、支援に見通しが一段落した「○月▲日」に数日に渡ったやり取りについて記載してはどうでしょうか。